

あば村づくりの3本の矢

ローカル・アバノミクス

ん？どこかで聞いたような・・・

あば村宣言から1年半。
移住者やUターンで戻ってくる人が増えてきた一方で、合同会社の厳しい経営状況や、農産加工施設の整備に伴う生産・販売体制の強化が急がれるなど課題が山積しています。こうした課題を克服するため、あば村運営協議会では現在3つの事業戦略『ローカル・アバノミクス』を立てて取組みを進めています。

●第1の矢：小さな拠点づくりによる暮らしの支え合い

— 合同会社（あば商店）が生活支援と見守りの核に —

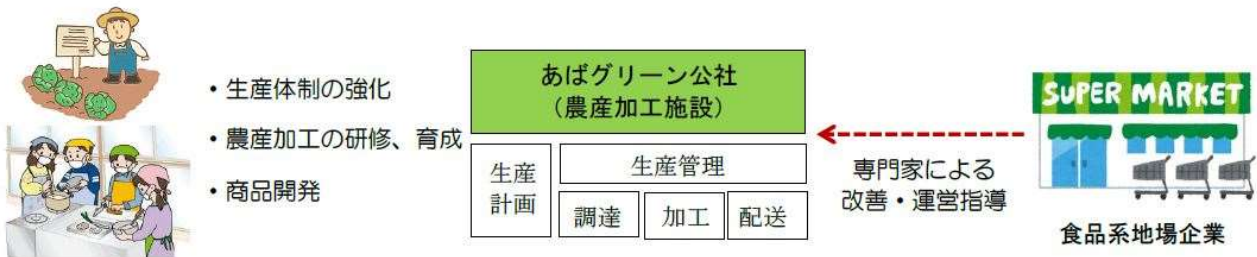


スーパーやホームセンターと連携した仕組みづくり

- ①御用聞きなどにより、あば商店から一括注文
- ②注文商品（混載便）があば商店に届く
- ③あば商店から、個別配達&見守り
- ④津山への帰り便で、阿波の野菜や加工品をスーパーなどに届ける

●第2の矢：あば村ブランドの開発・流通による雇用の創出

— 食品系地場企業との連携による流通などの強化 —



- ・生産体制の強化
- ・農産加工の研修、育成
- ・商品開発

●第3の矢：都市農村交流を通じた移住・定住の促進

— 自然・暮らし・食の交流体験「ふうど&エコツーリズム」 —



今年度は、「ふうど&エコツーリズム」のプラン作成や具体的なツアーの企画も行う予定です。